

森林の種類を調べる（森林の植物多様性）

1 概要

現在のように人間がたくさん住む前の和歌山県原植生（人間が手を加える前のもとの植生）は、カシ類やホルトノキ、タブノキなどの照葉樹林（冬でも葉を落とさない木の集まり）でした。しかし今は、人間が田や畑あるいは住居に変えたり、植林したり、管理をしたりして、原植生が残っている所は、鎮守の森や、山の奥深い原生林のみになっています。自分達の住んでいる周りの森と、原植生の森と比べて見ましょう。

2 ねらい

- ・ 自分たちが住んでいる地域の森林の種類を知ります。
- ・ 神社を囲む鎮守の森を調べ、もともとの自然植生(原植生)があれば、他の植生との違いを確かめます。

3 実施時期

新葉が出そろう5月から落葉が始まる秋にかけて最も適しています。

4 方法

- (1) 和歌山県の森林は、大まかに6つのタイプに分けられることについて学習します。
- (2) 指導者または有識者ととも近く森林に出かけ、樹木名や森林の種類について学びます。
- (3) (2)と同様に、原植生が多く残されている鎮守の森などに出かけ、樹木名や森林の種類について学びます。
- (4) (2)や(3)について結果をまとめ、その違いについて意見を述べ合います。

5 和歌山県の森林

和歌山県は、温暖で多雨な土地なので、標高600~700m以上の高地を除いて、本来の植生（原植生）は、ほとんど照葉樹林でした。照葉樹林の林内はうっそうとして薄暗くなっています。通常、植物はこの林内では生育できません。ところが、照葉樹林の幼木たちは暗さに強く、この林内でも育つことができるので、上層の木が倒れたりしても、すぐ下層で育っていた自分たちの子どもが大きくなってくため、植生が変わることはありません。このように照葉樹林はいったんできあがるといつまでも姿を変えることはないのです。

ところが、現在この森林は、山奥のカシ林や海岸沿いのウバメガシ林、ホルトノキ林、タブノキ林、神社や寺院の境内林（鎮守の森）、土砂崩れ防止の保安林としてわずかに見られる程度で、身近な山には、あまり見ることはできません。これはどうしてでしょうか？私たちの身のまわりを見わたしてください。平地や傾斜の緩やかな所は、街や農地になっていますし、もう少し地形の厳しいところは、スギやヒノキの造林地となっています。また特に紀北地方では、里山と呼ばれるアカマツやコナラの森林が広がっています。これらはすべて私たちや私たちの先祖が、暮らしやすい生活をするために作り上げた空間ですが、元は照葉樹林だったのです。以下に六つのタイプの森林について記述しますので参考にしてください。

(1) 常緑広葉樹林（照葉樹林）

照葉樹林は、ほとんどが冬に葉を落とさない常緑の木の集まりです。このような森林には、背の高いシイやカシの仲間、ホルトノキやタブノキ、中くらいの高さのヤブニッケイ、シロダモ、ヤブツバキ、人間の背丈のアオキやヒサカキなど、3段の枝葉の広がりがあり、さらに地面近くでは日光が少なくて

も光合成ができるジャノヒゲ、シダ類、ヤブランなどがまばらに生えます。海岸沿いでは、背の高くない2段あるいは1段のウバメガシ林がよく見られます。現在これらの森林は、山奥や海岸沿い、神社や寺院の境内林（鎮守の森）、土砂崩れ防止の保安林として、わずかに見られる程度で、身近な山には、あまり見ることはできません。

(2) ブナの落葉広葉樹林

およそ標高900m付近から上部の冷温帯に見られます。ブナ林は、護摩壇山・城ヶ森山系に最も広く残されていますが、さらに果無山脈や南部の内陸に孤立する大塔山系や大峯山脈の最南端の茶臼山、和泉葛城山の大阪側にも見られます。

(3) モミ・ツガなどの針葉樹林

冷温帯下部には、モミ・ツガ林と見られる中間温帯林が続いています。現在、自然林として残されている主なものは、高野山、西ノ川・亀谷・京大和歌山演習林など護摩壇山・城ヶ森山系、南部では果無山脈や大塔山・四ノ谷などに分布しています。

(4) 中間の自然林

ほとんどの森林は、このような極相林になるまでの中間の自然林です。たとえば、高地では、ブナミズナラ林、アカシデ・イヌシデ林、高地以外であれば、落葉樹を含むクロガネモチ・ヤブニッケイ林、アカマツ・モチツツジ林などがあります。

(5) 雑木林（アカマツ・コナラ・クヌギなど）

コナラ・クヌギなど、冬に葉を落とす落葉樹が中心です。人間が管理して育てている樹林で、落ち葉や下草、低木が目立つのが特徴です。農村地域では、コナラやクヌギで構成された雑木林が田畑に隣接して存在します。日本人は長い間、雑木林のコナラやクヌギを再生できる程度に株を切って薪や炭をつくり、燃料として使い、落ち葉も堆肥に利用していました。これらの森林は、自然にまかせておくと(1)のようになるので、シイ・カシなどの木を除去することで雑木林を維持していました。雑木林は冬にたくさん葉を落とすので、その落ち葉の層を求めて様々な土壌動物が集まってきます。また、落ち葉の積もった地面は保水能力が高く、落葉樹ばかりであるため春先まで光がよく当たることから、ネムノキ、リョウブ、ネジキ、ツツジの仲間、ネザサ、ベニシダ、コバノガマズミなどさまざまな低木や野草が生えます。クヌギやコナラは樹液を多く出すので、それを求めて、カブトムシ、クワガタムシ、コガネムシなどの甲虫の仲間や、チョウ、ハチの仲間が多く集まります。タヌキやキツネなどの中型動物のすみやすい環境でもあります。

(6) 植林（スギ・ヒノキ）

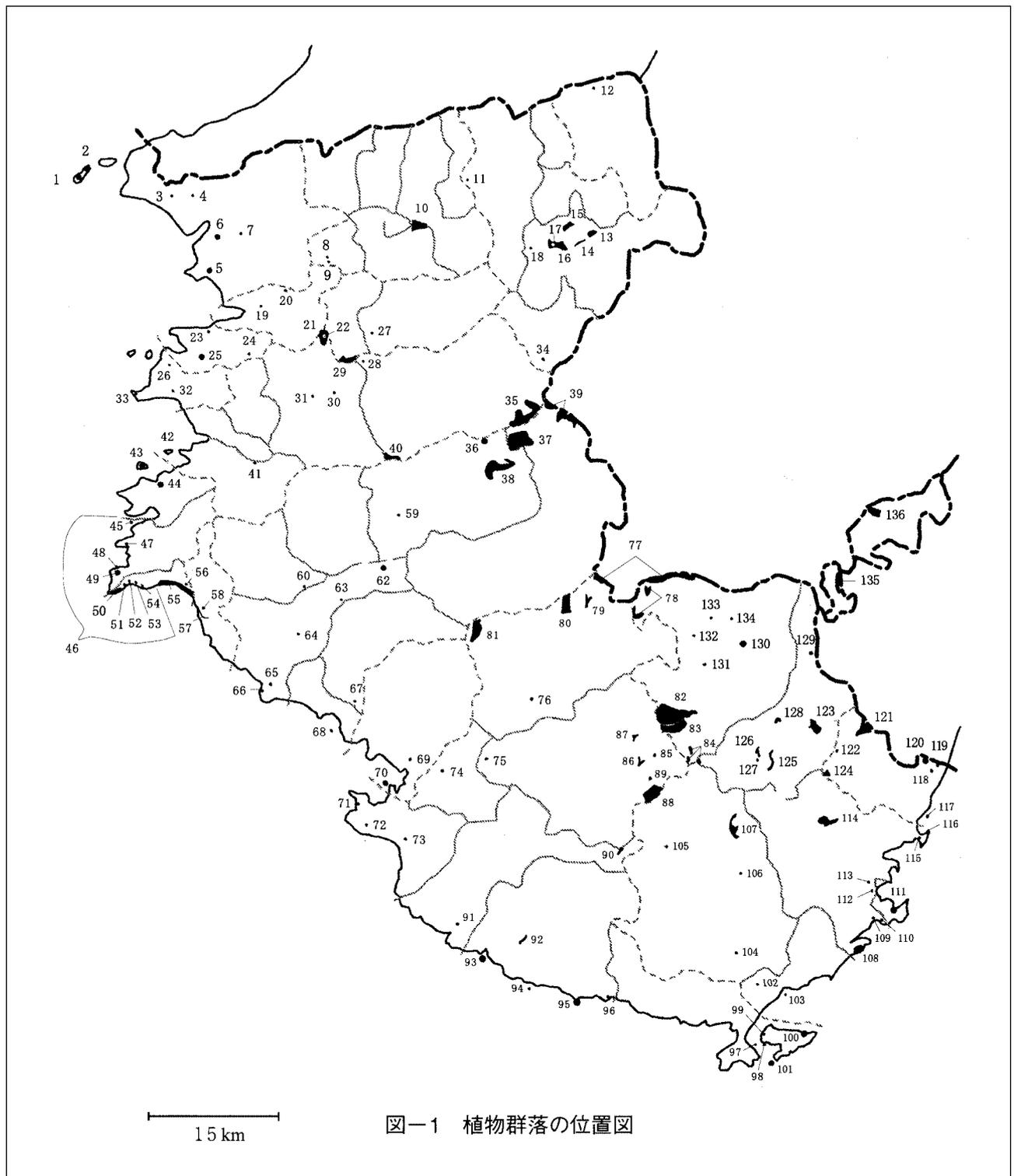
木が整然と並び、下草が少ないのが特徴の森林です。20世紀の後半、日本では木材生産のため自然林がどんどん伐採され、スギ・ヒノキが植林されました。よい材木を作るためには、枝打ちや間伐などの手入れが必要であり、また手入れが行き届いていれば、ある程度、動物が生息できる森林となります。ところが近年、人手不足や国産木材の需要の減少で、あまり手入れがされなくなっています。放置されたスギ・ヒノキ林は、枝葉がうっそうと茂り、地面に日光が届かず、下草も生えません。スギやヒノキは動物のえさとなる果実をつけないばかりか、常緑で冬に葉を落とさないので腐葉土があまり作られません。また、土が流出してしまう事が多く、これでは草食動物は生きていけません。当然、それを食べる肉食動物も生きていけない森林になっています。

資料 和歌山県の重要な植物群落 (和歌山県レッドデータブックより)

1 植物群落総括表

No.	群 落 名	No.	群 落 名	No.	群 落 名
1	友ヶ島の自然林	51	三尾のオオハマグルマ群落	101	通夜島のスダジイ林
2	友ヶ島の深蛇池植物群落	52	水藪遺跡のモチノキ林	102	重畳山のスダジイ林
3	木本神社のホルトノキ林	53	三尾のノアサガオ群落	103	九龍山の自然林
4	梅原の大年神社ホルトノキ林	54	三尾の龍王神社社寺林	104	八坂神社のコジイ林
5	和歌浦の東照宮社寺林	55	煙樹ヶ浜の松林	105	平井の若宮神社イチイガシ林
6	和歌山城の広葉樹林	56	松原王子神社社寺林	106	西赤木神社社寺林
7	秋月の日前宮社寺林	57	日高川の河口及び王子川のハマボウ群落	107	成見川の自然林
8	平池のオニバス群落	58	塩屋王子神社社寺林	108	浦神半島のウバメガシ林
9	貴志川のオニバス群落	59	上阿田木神社のスギ林	109	太田川のハマボウ群落
10	龍門山のキイシモツケ群落	60	大滝川の御滝神社社寺林	110	下里の池の谷湿地植生
11	船岡山のコジイ林	61	大滝川のキクシノブ群落	111	太地海岸のスダジイ林
12	矢倉脇の天王神社社寺林	62	川又観音の社寺林	112	湯川の塩湿地植物群落
13	摩尼山の自然林	63	田の垣内の眞妻神社のコジイ林	113	ゆかし瀧のハマボウ群落
14	高野山の墓地林	64	畑峰地藏社のウバメガシ林	114	那智原始林
15	高野山の学術参考保護林	65	切目神社社寺林	115	宇久井蛭子神社社寺林
16	高野山のツガ林	66	切目川河口のハマボウ二次林	116	宇久井水底神社社寺林
17	高野山のコウヤマキ林	67	晩稲の小殿神社イスノキ林	117	孔島のハマユウ群落
18	矢立の墓地林	68	鹿島のタブ林	118	新宮の藺ノ沢浮島植物群落
19	海南市の春日神社コジイ林	69	万呂の須佐神社コジイ林	119	新宮の阿須賀神社スダジイ林
20	小野田の宇賀部神社のコジイ林	70	神島の自然林	120	千穂ヶ峯の広葉樹林
21	黒沢山の蛇紋岩地植生	71	白浜の三所神社社寺林	121	白見山国有林の自然林
22	黒沢山の沼地植物群落	72	白浜のミズゴケ群落	122	高田のトガサワラ林
23	加茂神社のコジイ林	73	伊勢谷の日吉神社コジイ林	123	白見山民有林の自然林
24	大窪の木村神社社寺林	74	岡川八幡のコジイ林	124	大雲取山のアカガシ林
25	下津の長保寺社寺林	75	鮎川の住吉神社社寺林	125	静閑瀨の崖地植生
26	初島の国主神社社寺林	76	内ノ川の春日神社社寺林	126	大倉畑山のウラジロガシ林
27	箕六弁才天神社のアカガシ林	77	果無山脈のブナ林	127	大倉畑山のアケボノツツジ群落
28	生石神社社寺林	78	東ノ川の森林植生	128	和田川峡の崖地植生
29	生石山の墓地植生	79	坂泰山の自然林	129	宮井のオオタチヤナギ群落
30	立岩の石灰岩地植生	80	笠塔山の自然林	130	本宮のウラジロヨシノヤナギ群落
31	伏羊のシリブカガシ林	81	水上の自然林	131	皆地の湿地植生
32	野の立神社社寺林	82	黒蔵谷国有林の森林植生	132	中下番のシマユキカズラ群落
33	宮崎の鼻のキキョウラン群落	83	大杉大小屋国有林の森林植生	133	平治ノ滝の植物群落
34	角間木谷のツガ林	84	大塔山の自然林	134	三里神社のコジイ林
35	湯川川流域の京大演習林の自然林	85	法師山のヒメイワカガミ群落	135	瀨八丁のコジイ林
36	若藪山のブナ林	86	法師山のブナ林	136	四ノ谷の自然林
37	亀谷の自然林	87	安川のヒノキ・コウヤマキ林		
38	西ノ川の自然林	88	前ノ川の自然林		
39	護摩壇山のブナ林	89	前ノ川谷アカガシ林		
40	白馬山のブナ林	90	將軍山の自然林		
41	霊巖寺山の石灰岩地植生	91	安宅神社のコジイ林		
42	鷹島のスダジイ林	92	琴の滝の森林植生		
43	黒島の暖地性植物群落	93	稲積山の自然林		
44	衣奈八幡神社のスダジイ林	94	沖ノ黒島の自然林		
45	蟻島のタブノキ林	95	江須崎の自然林		
46	日高地方のアコウ個体群	96	里野八幡神社社寺林		
47	小浦の御霊神社のイヌマキ林	97	苗我島のスダジイ林		
48	阿尾の海浜植物群落	98	大島のマテバシイ群落		
49	阿尾海跡湿地植物群落	99	大島のハドノキ群落		
50	日ノ山のウバメガシ林	100	檜野海岸のスダジイ林		

2 和歌山県の重要な植物群落の位置図 (和歌山県レッドデータブックより)



注) 46は由良町、日高町、美浜町の海岸一帯